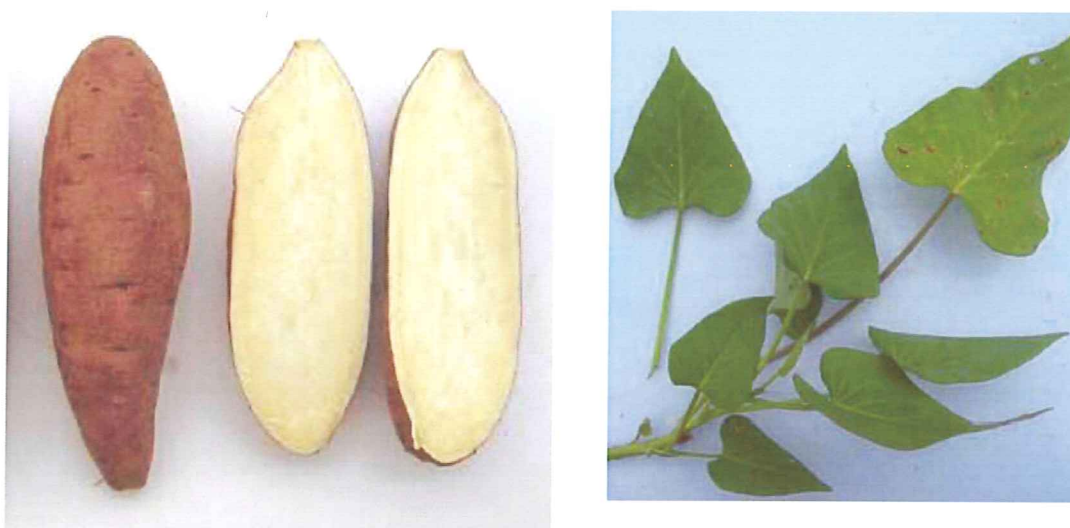


さつまいも新品种「甘多（かんだ）」

さつまいもを交配して新品种を作りました。

この品種は、本土の「紅あずま」などに負けない美味しさと、2.5t/10a以上の高収穫性、しかも病害虫に強い特長があります。

さらに、葉(カンダバー)は年中収穫でき、茎が柔らかく美味しいです。



さつまいもは、県内のスーパー・八百屋において、ほぼ全てが本土産で、その量は年間2000tと推測されます。

そこで、県産の新品种の美味しさが認知され、消費されれば、県内農家の収入は相当増加します。

なお、「甘多」を販売・出荷する際は、他の芋と差別化するために、県産の新品种であると、POP等で表示しましょう。

県内スーパー仕入担当談：

「消費者からは地産地消の希望があるので、美味しければ県産を扱いたい。」

この前、農家さんから話があり、『甘多』のカンダバーをテスト的に試食販売したら、すぐに売り切れた。」

直売所の店長談：

「県産と本土産のさつまいもを扱っているが、多い日は1日10万円売れる。本土産に負けない味の新品种であれば、是非仕入れたい。」

カンダバーも、茎が柔らかい&料理方法をアピールすれば、もっと売れるだろう。

POP内容については、いつでも店員に相談して欲しい。」

問い合わせ先：農業研究センター作物班(098-840-8505) 担当：大見
※21年度の配布は拠点産地の今帰仁、読谷、うるま、八重瀬のみです。22年度からは全市町村へ